

「生き生きと

暮らしやすいまち・安城」に。



——活動のきっかけは？

県の海外派遣事業に参加したことが始まりです。海外や県内の他の市町村の人たちとかかわっていくうちに、わがまち安城の男女共同参画に対する意識の低さに驚きました。何とかして女性の地位向上ができないものかと考えました。

——具体的には何をしたのですか？

ひとりではできない事でも、たくさんの方が集まればできることがありますよね。だからグループを作りました。



11月12日、男女共同参画フォーラムにて映画監督高橋伴明氏にインタビューする水野さん。

みずのじゅんこ

● 水野順子さん(里町・65歳)

10月26日：男女共同参画推進活動者として県知事表彰を受ける

平成元年：県青少年婦人室の海外派遣事業参加、西ドイツへ。帰国後、「国際交流はなのき会」入会

平成5年：「国際交流安城はなのき会」設立

平成10年：市男女共同参画プラン策定委員を務める

平成13年：「さんかく21・安城」設立、初代会長に就任

それが国際交流安城はなのき会です。私と同様に県の派遣事業に参加した市内の人たちとネットワークを形成したんです。

——その後、今の状況に至ったのは？

市の男女共同参画プラン策定委員をしているときに新しい出会いがあつて、考え方も少し変わりました。それまでは行政の審議会や各方面に女性の登用を強く求めていました。けれど「女性」の参画のみでなく「男性」の参画も社会形成には当然あつてしかるべきです。

筆者のつぶやき

「1つのグループの形成・持続には並々ならぬ努力が必要」と語って聞かせてくれた水野さん。これまでの経験を流ちょうに話していた時とは違って、その瞬間、非常にづらい思いに耐え抜いたという強い意志の表れのような目の輝きを感じました。若輩者の私ですが、ご苦勞をお察しします。

世間とはかく「男」「女」と区別して男女共同参画を推進しがちですが、これからは「市民」総参画の時代ですね。そう思うと、男女共同参画が少し身近に感じられます。

——今後の展望は？

今回の受賞も私一人で成せたものではないと思っています。皆さんのおかげでここまでできました。「さんかく21・安城」にしても、自分が自分が、と頑張りすぎず、メンバーの一人ひとりが役割を担って、責任を持って行動しています。会長職も2年で交代と決めているんですよ。後進の育成と新しい人材の確保は大切な事ですものね。

今後もし新しい風を取り入れながら、安城を「生き生きと暮らしやすいまち」にするために活動を続けたいと思っています。